たましろの郷後援会役員会

・施設から　2/9 法人の理事会の審議にて 2013 年度から新事業として今まであゆむ会がやっていた学童クラブ「かたつむり」を法人が担う。グループホームを運営することが決まった。

・法人本部から　2/9 評議委員会と理事会を開催。来期の評議委員と役員選出。理事や監事は継続。理事長は南宮氏。新事業をするにあたり定款の変更を行う。

・事務局から　2012 年度会員数…個人：1060 名（新規 84 名）
1145 口　団体：53 団体　106 口
募金箱…260 個回収　\1,088,994　（2 月 5 日現在）
（参照：2011 年度会員数　個人：1068 名（新規　114 名）
1153 口　団体：48 団体　91 口）
個人会員数が昨年度と比べて少し減っている。来年度の会員増のために頑張りましょう！

今後の予定

・3 月 2 日(土)・3 日(日)第 42 回耳の日記念文化祭
・4 月 21 日(日)たましろの郷開所記念もちつき集会
耳の日のナイトバーを例年通り行う。会場も同じ。　なかまの報告も行う。カレンダー、DVD も販売する。新しい DVD については編集、制作中。

2012 年度活動報告集会について

・日程　2013 年 6 月 1 日（土）PM2：00～PM4：00
集合 PM1：00　解散 PM5：00
・会場　港区ヒューマンぷらざ

（文責　西川）

都サ連一日研修会報告

二年前の 3 月 11 日に起きた千年に一度という東日本大震災は、未曽有の大災害をもたらしました。われわれは被災者を追悼する気持ちや被災地支援を、将来においても忘れてはなりません。今年度の都サ連事務局主催の一日研修会は、本年 1 月 20 日に「忘れない東北を！」をテーマに行いました。

午前中は被災三県の手話関係者の講演です。岩手と福島からは県手話サークル連絡協議会事務局長山崎倫氏と菅野剛氏、宮城（県手連が解散済）からは、みやぎ被災聴覚障害者情報支援センター（みみサポみやぎ）の庄子陽子事務局長が来られて講演されました。岩手の山崎氏の講演が始まると会場の雰囲気は一変しました。山崎氏は、『3・11震災直後から携帯、ファックスも使えない中で、ろう者の安否確認は通訳者ではなくサークル会員が家を訪問する形で進んだ。日頃からのサークルでのろう者との触れ合いが大切だ。サークルにろう者が来ないのは健聴者の責任だと思う。同じ被災地域の中でも、被害の深刻さで差別やいじめがある。東京で同じ災害が起きたら「とにかく生き抜いて欲しい！」』と話されました。

続いて庄子氏は、『今の被災地に必要なのは、話し相手だ。やっと話せるようになった辛い体験を聞いてくれる仲間だ。東京から交流に来て欲しい。それが一番の支援になる。』と話されました。

三人目の菅野氏は、『放射能に関する無知と誤解がそのまま福島県民への誤解と偏見や差別につながっている。福島県民だけでなく福島の生産物、福島の工業製品など、すべてを排除しようとするような風評被害も相変わらず根強い』との話がありました。つまり我々が放射能に対して無関心でいることですら、福島県の人たちにとっては辛いのだということがわかり、会場の皆が考え込んでいるようでした。

午後は防災の観点から東京都の現状について、東京都聴覚障害者連盟　粟野達人災害対策委員長と東京都手話通訳問題研究会　斉藤啓子災害対策委員から報告を聞いた後、5 人のパネラーを中心に参加者も加わり、全員で課題を討論しました。「個人情報の問題で防災マップなどが進まない」などの声に、「個人情報という言葉が出ているうちは、生きるか死ぬかの現実問題に本気で取り組んでいない証拠である。支援が一日遅れれば死ぬ人も増えるのだ！」（山崎氏）、「個人情報とプライバシーを混同していては、人命救助は無理」（菅野氏）との厳しい意見があり会場内がシーンとなる一幕もありました。

そして最後に東京都に限らず手話サークル連絡協議会に加盟する意義について、「日頃からその組織に所属してメリットを実感できる組織などあるだろうか？メリットと言うなら非常時にこそ享受出来るのだ。」という山崎氏の言葉で討論は終了しました。

この講演でサークルの存在の意味や重要性、また震災時における聞こえない人たちの支援のあり方について改めて学ぶことが出来ました。東京でも直下型地震の予測が出ていることもあり、とても真剣な話し合いになりました。何か起きた時の支援体制や、支援する側のサポートとケアについて今後も話し合っていきたいと思います。

行事が重なり約 120 名という当初の見込みより少ない参加者でしたが、内容はとても有意義で今後の防災対策への大きな刺激になるものでした。要員、通訳、販売のみなさま、最後の片付けまでお手伝い頂いたみなさま本当に有難うございました。都サ連としては、私たちの進むべき方向性を再度確認し、地域で活動する手話サークルが結束することで、活動の門扉を広げることができると考えています。今後ともどうぞよろしくお願いします。

（文責　高田）